

# 幼 児 の 教 育

昭 和 十 一 年 一 月

## よろこびの人

子ぎもの傍にあるものは、よろこびの人でなければならぬ。

よろこびの人は、子ぎもらのため的小さき太陽である。明るさを預ち、温かみを傳へ、生命を力づけ、生長を育てる。見よ、その前に立つ子ぎもらの顔の、照々として輝き映ゆるを。なごやかなる生の幸福感を受け充ち溢ふるを。

これに反し、不平不満の心ほぎ、子ぎもの傍にあつて有毒なものはない。その心は必ずや額を険はしからしめ、目をぎげくしからしめ、言葉をあらくしからしめる。假りに自ら抑へて表情をつしむ繕つたにしても、底に溜滞し、泡沸するところのものは、識らずく漏れて酸辛の瘴氣となり、流れて苦澁の毒液にならずにゐない。これほぎ子ぎものやはらかき性情を傷けるものはなく、これほぎ子ぎもらのために相濟まぬこゝちはない。

不徳自ら愧づ。短才自ら悲しむ。しかも今日直に如何んごもし難い。たゞ、愚かなる不満ご、驕れる不平ごを捨ててこゝちは、今日を轉機として必ず心がけなければならぬ。然らずんば、子ぎもの傍にあるべき最も本質的なものを缺くのである。

年新たなり。希くは、子ぎもらのために小さき太陽たらんこゝちを。